

授 業 概 要

平成27年度

————— 1 年 次 生 —————

群馬医療福祉大学 看護学部

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡787-2

TEL 0274-24-2941

FAX 0274-23-4160

群馬医療福祉大学看護学部看護学科

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考			
		必修	選択				必修	選択				
人文社会科学系	1. 哲学	1	1		医学自然科学系 看護学関連領域	43. 人体構造機能学Ⅰ	1	1	養1			
	2. 法学（日本国憲法を含む）	1		2		養1・2	44. 人体構造機能学Ⅱ	1	1			
	3. 基礎演習Ⅰ	1	2			養1	45. 人体構造機能学Ⅲ	1	1	養1		
	4. 基礎演習Ⅱ	2	2			養1	46. 人体構造機能学Ⅳ	1	1			
	5. 専門演習Ⅰ	3	1			養1	47. 人体構造機能学Ⅴ	1	1			
	6. 専門演習Ⅱ	4	1			養1	48. 疾病・治療論総論	1	1			
	7. ボランティア活動と自己省察	1	1				49. 疾病・治療論各論Ⅰ	1	1	養1		
	8. 論語	1	1				50. 疾病・治療論各論Ⅱ	1	1			
	9. 人間の心理	1	1				51. 疾病・治療論各論Ⅲ	2	1			
	10. 論理学	1		1			52. 疾病・治療論各論Ⅳ	2	1			
	11. 社会学	1		1			53. 疾病・治療論各論Ⅴ	2	1			
	12. ヘルスカウンセリングの原理と方法	2		1		養1	54. 微生物学	1	1	養1		
	13. 文学論	4		1			55. 生化学	1	1	養1		
	14. 芸術論	4		1			56. 栄養学	1	1	養1		
自然科学系	15. 経済学	2		1		57. 病理学	1	1				
	16. 化学	1		1		58. 臨床薬理薬物論	1	1	養1			
	17. 物理学	1		1		59. 公衆衛生学	2	1	養1・保			
	18. 住環境福祉論	2		1		60. 疫学・保健統計の基礎	2	2	養1・保			
	19. 情報処理演習	1	1		養1・2	61. 疫学・保健統計の実際	3		2	養1・保		
	20. 統計の基礎	1	1		養1・2							
一般教養領域	21. 生活科学	1		1		社会科学系（保健医療福祉）	62. 看護関連法規	3	1			
	教育学系	22. 教育と学習の原理	2	2			養1	63. 社会保障制度	2	1	保	
		23. 教育心理学	2		1		養1	64. 社会福祉制度	2	1	保	
		24. 教育方法論	2		2		養1	65. 医療と倫理	2	1		
		25. 健康教育論	2		1		養1	66. 看護と医療過誤	4	1		
		26. 教職概論	3		2		養1	67. チーム医療論	4		1	
		27. 教育課程論	3		1		養1	68. リハビリテーションの基礎	2		1	
		28. 道德教育研究	1	2			養1	69. 保健医療福祉政策論	3		2	保
		29. 生徒指導論	3		2		養1					
	30. 教育相談論	4		2	養1							
	31. 教職実践演習	3		2	養1							
	32. 教育総合実習Ⅰ	4		2	養1							
	33. 教育総合実習Ⅱ（養護実習）	4		2	養1							
	34. 健康障害児・生徒支援論	3		1	養1							
	35. 教育社会学	3		2	養1							
	外国語	36. 基礎英語	1	1		養1・2						
		37. 医療英語	1		1	養1・2						
38. 医療英会話		2		1								
39. 韓国語		4		1								
スポーツ科学	40. スポーツ科学原理	1	1		養1・2							
	41. スポーツ演習	1		1	養1・2							
	42. レクリエーション活動援助法	2		1								
小計							42	43				

授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考
			必修	選択					必修	選択	
看護学領域	基礎看護学	70. 看護学概論Ⅰ	1	1	養1	在宅看護学	110. 在宅看護学概論	2	1		
		71. 看護学概論Ⅱ	1	1			111. 在宅看護援助論Ⅰ	2	2		
		72. 看護方法論Ⅰ	1	1			112. 在宅看護援助論Ⅱ	2	1		
		73. 看護方法論Ⅱ	2	1			113. 在宅看護学実習	3	2		
		74. 基礎看護援助技術Ⅰ	1	1	養1	114. 訪問看護ステーション等経営管理論	4	1			
		75. 基礎看護援助技術Ⅱ	1	1		公衆衛生看護学	115. 地域看護学概論	2	1		保
		76. 基礎看護援助技術Ⅲ	1	1	養1		116. 地域看護学活動論	2	2		養1・保
		77. 基礎看護援助技術Ⅳ	1	1			117. 公衆衛生看護学原論	3	1		保
		78. 基礎看護援助技術Ⅴ	2	1			118. 公衆衛生看護学活動論Ⅰ	3	2		保
	79. 看護論	1	1		119. 公衆衛生看護学活動論Ⅱ		3	2		保	
	80. 基礎看護学実習Ⅰ	1	1	養1	120. 公衆衛生看護学活動論Ⅲ		4	2		保	
	81. 基礎看護学実習Ⅱ	2	2		121. 公衆衛生看護管理論		4	1		保	
	精神看護学	82. 精神看護学概論	1	2	養1		122. 産業保健論	3	1		保
		83. 精神看護援助論Ⅰ	1	1	養1		123. 養護概説	3	2		養1
		84. 精神看護援助論Ⅱ	2	1		124. 学校保健活動論Ⅰ	3	1		養1・保	
		85. 精神看護学実習	3	2		125. 学校保健活動論Ⅱ	3	1		養1	
		母性看護学	86. 母性看護学概論	2	1		126. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域実習)	4	3		保
	87. 母性看護援助論Ⅰ		2	1		127. 公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健実習)	4	1		保	
	88. 母性看護援助論Ⅱ		2	1		128. 公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健実習)	4	1		保	
89. 母性疾病論	2		1		統合分野	129. 施設・病棟統合実習	3	2		養1	
90. 母性看護学実習	3		2			130. 看護活動におけるメンバー・リーダーシップ	3	1		保	
小児看護学	91. 小児看護学概論	2	1	養1		131. 感染・災害看護と危機管理(国際協力含む)	4	1			
	92. 小児看護援助論Ⅰ	2	1	養1		132. 看護学教育論	4	1			
	93. 小児看護援助論Ⅱ	2	1			133. クリティカルケア特論	4	1			
	94. 小児看護援助論Ⅲ	2	1			134. 家族援助論	4	1			
	95. 小児看護学実習	3	2	養1		135. 看護研究概論	3	1			
成人看護学	96. 成人看護学概論	1	1			136. 看護研究方法論	3	1		養1・保	
	97. 成人看護援助論Ⅰ	2	1			137. 看護研究セミナー	4	1		養1・保	
	98. 成人看護援助論Ⅱ	2	1		小計		69	20			
	99. 成人看護援助論Ⅲ	2	1		合計		111	63			
	100. 成人看護援助論Ⅳ	2	1		合計 必修科目数91 必修単位数111 選択科目数46 選択単位数63						
	101. 成人看護援助論Ⅴ	2	1		卒業要件 必修科目数91 必修単位数111 選択単位数13						
	102. 成人看護学実習Ⅰ	3	2		総合計 単位数124						
	103. 成人看護学実習Ⅱ	3	4		※卒業要件の内訳については下記参照のこと。 ※保健師免許取得希望者は、「保」の記入科目全ての単位を修得すること。 ※養護教諭一種免許取得希望者は、「養1」の記入科目全ての単位を修得すること。 ※保健師免許取得者で養護教諭二種免許取得希望者は「養2」の単位を修得すること。						
高齢者看護学	104. 高齢者看護学概論	1	1		卒業要件						
	105. 高齢者看護援助論Ⅰ	2	1		1. 「一般教養領域」「看護学関連領域」「看護学領域」の必須90科目、111単位を修得すること。						
	106. 高齢者看護援助論Ⅱ	2	1		2. 「一般教養領域」(人文社会科学系・自然科学系・教育学系・外国語)と「看護学関連領域」の選択科目から各2単位以上の計10単位、「看護学領域」の選択科目から3単位以上を修得すること。						
	107. 高齢者看護援助論Ⅲ	2	1		3. 必須111単位、選択13単位の合わせて124単位修得を卒業要件とする。						
	108. 高齢者看護学実習Ⅰ(老人保健施設等)	3	2		4. 養護教諭一種免許取得を希望する者は、上記の1.2.3.の要件を充たした上に、「養護教諭一種免許課程」に基づき、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目8単位、養護又は教職に関する科目7単位、教職に関する科目21単位を履修すること。						
	109. 高齢者看護学実習Ⅱ(医療施設等)	3	2								

目 次

授 業 内 容

哲学	1
基礎演習Ⅰ	2
ボランティア活動と自己省察	4
人間の心理	5
論理学	6
化学	7
物理学	8
情報処理演習	9
統計の基礎	10
生活科学	11
道德教育研究	12
基礎英語	13
スポーツ科学原理	14
人体構造機能学Ⅰ	15
人体構造機能学Ⅱ	16
人体構造機能学Ⅲ	17
人体構造機能学Ⅳ	18
生化学	19
看護学概論Ⅰ	20
看護学概論Ⅱ	21
基礎看護援助技術Ⅰ	22
基礎看護援助技術Ⅱ	23
法学	24
論語	25
社会学	26
医療英語	27
スポーツ演習	28
人体構造機能学Ⅴ	29
疾病・治療論総論	30
疾病・治療論各論Ⅰ	31
疾病・治療論各論Ⅱ	32
微生物学	33
栄養学	34
病理学	35
臨床薬理薬物論	36
看護方法論Ⅰ	37
基礎看護援助技術Ⅲ	38
基礎看護援助技術Ⅳ	39
看護論	40
基礎看護学実習Ⅰ	41
精神看護学概論	42
精神看護学援助論Ⅰ	43
成人看護学概論	44
高齢者看護学概論	45

科目名	哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとらえてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかにか生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学卒句(右経一章)明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章)心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章)朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを憂えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに問せず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験(口論述 口客観) ■レポート 口口頭試験 口実地試験 口その他
評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、総合的に評価する。筆記試験・レポートの評価に加え、授業への積極的な参加態度やコメントカードの提出等も評価に加味する。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	クラス担任	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- 2 基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成など学習スキルを身につける。
- 3 昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。

■授業の概要

授業を、①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する、人間としての基礎的能力教養力と自律的実践能力を学習するとともに、基礎的学習スキルを身につけることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	前期オリエンテーション：基礎演習Ⅰの目的・到達目標の説明 進路、資格取得プログラム①個人面談についてⅠ（基礎調査シート作成）
第2回	建学の精神と実践教育プログラム①：環境美化活動意義と実践方法
第3回	心身の健康プログラム①：健康管理についてⅠ（親睦スポーツ大会準備）
第4回	心身の健康プログラム②：親睦スポーツ大会
第5回	建学の精神と実践教育プログラム②：ボランティアの意義・方法
第6回	学士力養成プログラム①：大学での授業の受け方Ⅰ（講義、演習、実習、実技、試験説明）
第7回	学士力養成プログラム②：レポートの書き方/ノートの取り方
第8回	学士力養成プログラム③：プレゼンテーションの仕方
第9回	学士力養成プログラム④：図書館利用指導及びインターネットについてⅠ（図書館・インターネットの利用の仕方）
第10回	学士力養成プログラム⑤：文献検索/興味ある事柄について文献で調べる
第11回	学士力養成プログラム⑥：文献カードの作成
第12回	学士力養成プログラム⑦：研究の意義と目的
第13回	学士力養成プログラム⑧：研究テーマの設定、研究計画書の作成、論文の書き方
第14回	地域貢献プログラム①：昌賢祭準備（昌賢祭：テーマ策定、研究班編成）
第15回	地域貢献プログラム②：昌賢祭準備（昌賢祭：各研究班調査資料収集）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取り組み内容（60%）、提出物（40%）を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝（翻訳）初編『伝習録』明治書院、2009年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	クラス担任	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- 2 基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成など学習スキルを身につける。
- 3 昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。

■授業の概要

授業を、①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する、人間としての基礎的能力教養力と自律的实践能力を学習するとともに、基礎的学習スキルを身につけることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	進路、資格取得プログラム②：個人面談Ⅱ（後期の学生生活について：基礎調査シート追加記載）
第17回	進路、資格取得プログラム③：個人面談についてⅢ（後期の学習方法について：基礎調査シート追加記載）
第18回	地域貢献プログラム③：昌賢祭準備（昌賢祭：各研究班資料分析、発表検討）
第19回	地域貢献プログラム④：藤岡まつり準備
第20回	地域貢献プログラム⑤：藤岡まつり
第21回	地域貢献プログラム⑥：昌賢祭準備（グループ研究中間発表）パワーポイントを使用してプレゼンテーション
第22回	地域貢献プログラム⑦：昌賢祭準備（グループ研究発表後の追加・修正）
第23回	地域貢献プログラム⑧：昌賢祭準備（グループ研究ポスター発表に向けての準備）
第24回	進路、資格取得プログラム④：国家試験対策（看護師：低学年模擬試験についての意義）
第25回	進路、資格取得プログラム⑤：看護師低学年模擬試験の実施
第26回	建学の精神と実践プログラム③：ボランティアのまとめ（集計・次年度のボランティア計画の作成）
第27回	学士力養成プログラム⑨：基礎教養セミナーⅠ（数学・生物・化学・漢字・現代文）
第28回	学士力養成プログラム⑩：基礎教養セミナーⅡ（数学・生物・化学・漢字・現代文）
第29回	学士力養成プログラム⑪：基礎教養セミナーⅢ（数学・生物・化学・漢字・現代文）
第30回	進路、資格取得プログラム⑥：個人面談についてⅤ（次年度に向けての学習目標・生活目標：基礎調査シートまとめ）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取り組み内容（60%）、提出物（40%）を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝（翻訳）初編『伝習録』明治書院、2009年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動と自己省察	担当教員 (単位認定者)	足立勤一・ 看護学部専任教員	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	ボランティア活動 人間形成 自己省察 自己課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業目的〕

ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度を学び、身につける。幅広い視点・視野・協調性・行動力などを培うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度やボランティアの必要性を理解し、実践することができる。
- ②医療福祉施設の現場におけるボランティア活動を体験することで、医療従事者を目指す者として省察することができる。
- ③医療福祉施設等を含めた様々なボランティア活動を通して、自己課題を見出すことができる。

■授業の概要

ボランティアの意義や目的、活動の種類、実践のために必要な知識・技術・態度を学習する。
医療福祉施設を含むボランティア体験を通して、自己を省察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/ボランティア活動とは/本学・本学部におけるボランティアの位置づけ
第2回	自己目標の設定
第3回	ポートフォリオの実際について/ボランティア活動の実践に向けてのオリエンテーション
第4回	ボランティアに臨む為の態度/本学の学生のボランティア活動の紹介と学生のボランティア体験報告
第5回	ボランティア活動についてのグループディスカッション
第6回	グループ発表
第7回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践
第8回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践
第9回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践
第10回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践
第11回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践
第12回	ボランティア活動を通しての自己省察(グループワーク)
第13回	ボランティア活動を通しての自己省察(グループワーク)
第14回	1年間の振り返り(グループ発表)
第15回	1年間の振り返り(グループ発表)/まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講のルール〕

A4 ファイルを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどのように成長したかまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。依頼ボランティアや医療福祉施設でのボランティア参加方法について十分理解し、先方とトラブルのないように配慮してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 50%、ボランティア参加状況 40%、授業内発表 10%。

■教科書

岡本栄一監修 守本他編集「ボランティアのすすめ 基礎から実践まで」ミネルヴァ書房

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	人間の心理	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	人間の心理				

■授業の目的・到達目標

- ①心理学の基本的概念や知識を学ぶことによって、人の心の成り立ちや機能を理解すること。
- ②心を対象とする研究を知ることによって、人間を理解するための教養を開発すること。
- ③人とのよりよい関わりを築く前提となる、自己や他者への理解を深め、人間理解の多様な視点を磨く。

■授業の概要

本講義では、名前と個性を持つ一人の人の心や生活を理解する前提となる、一般的な心理学の基礎知識について学んでいく。学習の中心的な項目は、心を生み出す重要な要素である、知覚・認知、記憶、意識、さらには、学習、思考、感情、パーソナリティなどの概念や知識等となる。そもそも、当たり前になり立っているか。また、一人の人として、社会で生きるためには、何が機能する必要があるか。心理学の基礎を学ぶことで、これらの問いに対する答えを、それぞれが考えてもらいたい。また、人や人の人生を、長い尺度、多様な尺度から見つめる視点を磨いてもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 心理学入門
第2回	知覚と認知 人は環境をどのように認識するか
第3回	学習、概念
第4回	記憶
第5回	欲求、動機づけ、感情
第6回	発達
第7回	パーソナリティとパーソナリティ検査
第8回	無意識の発見 フロイトとユングのパーソナリティ理論と防衛機制

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 身近な話題から、将来の医療現場での直接的な患者理解に関わる内容まで、幅広い内容を扱う。限られた時間で広範囲の内容を扱うので、あらかじめ予習をしっかりと行い出席してほしい。また、自分の将来の職業像を描きながら、受講してもらいたい。
- シラバスを参考に、授業の予習復習をすること。私語や携帯の使用など、講師の集中を妨げる行為については、退席を命ずる場合もある。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスを見て、予習をすること。授業中紹介する参考文献等について積極的に調べること。

■オフィスアワー

授業後質問があればすること。あとは、大学のメールに質問等を送信可能。hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp

■評価方法

原則として、講義終了後の試験 120 点と、小レポート課題 30 点。あわせて 150 点満点にて評価。
60%～70%=C、71%～80%=B、81%～90%=A、91%以上=S。

■教科書

齊藤勇著(2005) 図説心理学入門 誠心書房

■参考書

適宜指示。

科目名	論理学	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	三段論法、判断、推理、帰納、演繹				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

正しい思考の形式及び法則を学び、正しく考え、真の知識に到達するための基本を習得する。

[到達目標]

- ①基本的な記号の意味と使い方が分かる。
- ②主要な論理法則の意味を理解し、日常で正確に使うことが出来る。
- ③論理式の簡単な変形ができる。

■授業の概要

最初にアリストテレス以来の三段論法を中心とする伝統的論理学を学び、次に現代の命題論理を中心とする記号論理学を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、思考の原理
第2回	概念
第3回	判断と命題
第4回	直接推理①
第5回	直接推理②
第6回	直接推理③
第7回	間接推理①
第8回	間接推理②
第9回	間接推理③
第10回	ベン図を適用する方法①
第11回	ベン図を適用する方法②
第12回	帰納法
第13回	命題論理①
第14回	命題論理②
第15回	述語論理

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・板書、口述内容は定期試験に重要なのでノートに整理すること。
- ・小論文、レポートは必ず提出すること。
- ・5回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習復習は、予習を重点に学習すること。

■オフィスアワー

授業後30分。

■評価方法

定期試験、小論文、レポートを総合的に判断する。(目安)定期試験70%、小論文、レポート30%。

■教科書

「論理学の初歩」第2版 大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中川浩一著 梓出版社

■参考書

シラバスで紹介。

科目名	化学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	物質の構成、物質の状態、物質の反応、有機化合物				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物質についての知識を得るとともに、自然科学の考え方を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①さまざまな物質について構成や状態、性質の違いを表現することや説明ができる。
- ②化学反応の種類や表し方を説明し、量的な関係について計算ができる。
- ③今後の生化学・医学・薬理学等の学習について基礎ができています。

■授業の概要

元素の種類を知り、元素記号や原子の結合、化学式を学習する。化学反応に伴う量的な扱い方を学ぶとともに基本的な化学反応の種類を知る。有機化合物の構造、性質を学ぶことで将来の他分野への基礎とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	はじめに 1 物質の構成
第2回	2 化学結合
第3回	3 物質量と化学反応式
第4回	4 物質の状態
第5回	5 酸と塩基・酸化と還元
第6回	6 化学反応と熱・化学平衡
第7回	7 有機化合物(1) ① 炭化水素 ② 脂肪族化合物
第8回	7 有機化合物(2) ③ 芳香族化合物 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。

〔受講のルール〕

- ・プリント、教科書を使用し、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。
- ・わからないことがあった場合は、その場でまたは授業後に質問するか、コメントカードに書くなどしてそのままにしないこと。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

復習では授業の内容を筋道をたどって理解できたか確認すること。その際、授業で扱った問題を自分でもう一度解き直し、教科書の章末問題を解いておくこと。また、覚えなくてはならないことは確実に覚えておくこと。

■オフィスアワー

- ・授業終了後30分間。
- ・コメントカードに書いた質問については次の授業の最初に答える。

■評価方法

筆記試験 100% (定期テスト、課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

松岡雅忠:まるわかり!基礎化学 南山堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、放射線等について知り、その表し方や法則を説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	はじめに I 物理を理解するための道具とルール
第2回	II 力学の基本
第3回	III 物体の運動と力の関係
第4回	IV 圧力のはたらきと物を回転させる力
第5回	V エネルギーとその保存則
第6回	VI 気体分子の運動とエネルギー
第7回	VII 波の性質と音・光
第8回	VIII 光(レンズ) VIII 原子の構造と放射線 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。

[受講のルール]

- ・教科書・プリントを使用し、板書も行おうが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。
- ・授業中にわからないことがあった場合はいつでも質問してよい。授業時間内に質問できなかったときはコメントカードに書くか授業後に質問すること。わからないことをそのままにしておかないこと。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

■オフィスアワー

- ・授業終了後30分間。
- ・コメントカードに書いた質問については次の授業の最初に答える。

■評価方法

定期試験 100% (定期テスト、課題テスト、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

菓子 研: まるわかり! 基礎物理, 南山堂, 2013

■参考書

佐藤和良: 看護学生のための物理学 第4版, 医学書院, 2009

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・養護教諭 一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	Word、Excel、レポート作成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。
- ④Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる。

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使ってレポートなどの各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	(概論) オリエンテーション、パソコンの基本操作
第2回	(概論) ホームページの利用と情報セキュリティ
第3回	(Word) 基本的な文章の入力とファイル操作
第4回	(Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
第5回	(Excel) Excelの基本操作
第6回	(PowerPoint) プレゼンテーション作成の基本
第7回	(Word/PowerPoint 共通) 表を含む文書の作成
第8回	(Word/Excel/PowerPoint 共通) 図形を含む文書の作成
第9回	(Word) 複数ページ文書の作成、同じ体裁の文書を効率よく作成
第10回	(Excel) グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、複合グラフ)
第11回	(Excel) 基本的な計算
第12回	(PowerPoint) 画面切り替えとアニメーション
第13回	(PowerPoint) プレゼンテーションに関する機能
第14回	(Word/Excel/PowerPoint 共通) アプリケーション間のコピーと貼り付け、その他補足事項
第15回	レポート作成実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前20分間。

■評価方法

レポート課題による評価。

レポートとしてのまとめ(30%)、Wordの書式関連機能の活用度(30%)、Wordの図や表に関連する機能の活用度(20%)、Excelの各種機能の活用度(20%)。

■教科書

できるWord&Excel 2013、インプレス、2013年
できるPowerPoint 2013、インプレス、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	統計の基礎	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・養護教諭 一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	統計の基礎				

■授業の目的・到達目標

近年のコンピューターの発達に伴い、看護学の分野で統計的手法を用いた研究が多くなり、こうした手法を理解することは今後ますます重要になってきている。看護学研究を行う上での分析手法である統計学を習得し、研究を円滑に行っていく力を身につけることを到達目標とする。

■授業の概要

統計学の基礎的な理論について学習し、さらに看護学に関連するデータを用いて、演習形式で学習する。また統計的手法を用いた実証分析の方法についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	イントロダクション
第2回	統計表の読み方
第3回	データの性質と代表値
第4回	分散と標準偏差
第5回	無作為抽出(1)
第6回	無作為抽出(2)
第7回	相関
第8回	データ分析(1)
第9回	データ分析(2)
第10回	クロス集計
第11回	グラフ作成
第12回	分布の形状(1)
第13回	分布の形状(2)
第14回	パソコン演習
第15回	データ分析(3)

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	生活科学	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	平成27年度休講	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	家族、衣・食・住・家庭管理、生活科学、生活文化				

■授業の目的・到達目標

「生活を科学する」習慣を身につけることによって、賢く豊かな生活を営めるようになる。また、「生活文化」の知識をコミュニケーションに活かすことはもとより、国際人として日本の文化を語れるようになる。

■授業の概要

一見当たり前で過ごしている日常生活そのものの本質を知るとともに、生活用品・用材の基本構造や各生活事象の背景にある原理・原則について解説する。さらに、衣食住における日本独自の文化についても言及する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス：「生活を科学する」とは？
第2回	「生活科学チェックテスト」の実施（生活者としての習熟度チェック）
第3回	家庭生活の経営と管理： 家族・家庭生活 生活設計 生活時間
第4回	家庭生活の経営と管理： 「ライフコース」の作成
第5回	家庭生活の経営と管理： 家庭経済と消費生活 消費生活の課題
第6回	食生活： 栄養と調理
第7回	食生活： 食文化
第8回	衣生活： 衣服の役割と機能 衣服の選択
第9回	衣生活： 被服素材と品質表示 被服の衛生
第10回	衣生活： 被服の管理
第11回	衣生活・住生活： 洗浄理論
第12回	住生活： 住居の役割と機能 快適な室内環境
第13回	住生活： 住居の安全と管理 バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回	生活文化： 生活の中の文様・色彩 年中行事
第15回	まとめ： 生活を統合する

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、日用品や食材の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験（60％） 提出物（40％）

■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	道徳教育研究	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	人間力を育てる学び				

■授業の目的・到達目標

- ・人が社会にあって、人としてどうあるべきなのかを学び、実践できる力を身につける。
- ・自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける。

■授業の概要

- ・人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・科目オリエンテーション(講義内容・方法、授業時の留意事項、評価) ・咸有一徳とは
第2回	・事象の論説・事実把握・検証・論述すること(題材「ハチドリのひとつく」)
第3回	・「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第4回	・論語に見る「徳」「仁」の解釈。孔子の時代
第5回	・小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第6回	〃
第7回	・「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈) ・「心」の字源
第8回	・「至誠」「尽くす」の解説 ・「儒教」とは ・知行合一(五常・吾倫)の解説
第9回	・豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)
第10回	・家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第11回	・福祉界が望むマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第12回	・学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第13回	〃
第14回	・時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・意欲的な学習態度であること。
- ・日常生活において学びを実践すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について関心を持ってとらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提出物と定期試験によって評価。それぞれが60%を超えていること。

■教科書

咸有一徳

■参考書

授業において紹介。

科目名	基礎英語	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・養護教諭 一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域科目における「外国語」			
キーワード	基礎英語				

■授業の目的・到達目標

- 1) 英文の情報を早く正確に把握できる。
- 2) 医療関連記事を理解できる。
- 3) 入学までに身につけた単語を使って日常会話が行える。

■授業の概要

医療関連の記事をグループで担当し、発表する形式で進める。理解を深めるために新聞記事の使用や文法事項を復習する。基礎的コミュニケーション技術を身につけるため、聞き取りや役割練習を取り入れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	Chapter1: Polio	大きな数字と年号の読み方。医学用語の略語に慣れる。
第2回	Chapter2: Personal Prescription	処方文を読み、命令形の復習と習得を図る。
第3回	Chapter4: Anti-Diarrheal	表から薬の種類、服用回数、服用量を読み取る。
第4回	Chapter3: Hay fever	症状を読み取る。症状表現のhaveと現在完了形のhave
第5回	Chapter10: Food Allergies and Food Intolerance	各パラグラフの要点をつかむ。症状の単語数を増やす。
第6回	Chapter5: Sleeping Problem	分数、少数点、パーセントの読み方。身体部位の単語(p.74)を覚える。
第7回	Chapter6: SARS	症状、感染経路、対策を読み取る。
第8回	Flu Shots on p.64-p.66	内容理解問題に挑戦する。
第9回	Chapter7: Diabetes	長い主語に慣れ、文の構造を理解する。臓器の名前(p.75)
第10回	Chapter8: Arterial Diseases	原因、結果、対策を読み取る。Vital signs測定の話練習。
第11回	Chapter11: Carpal Tunnel Syndrome	CTSが起きる仕組みと症状を読み取る。経験の現在完了形
第12回	筋骨格の症状の表現(p.70)を覚える。痛みについての聞き取り(p.15, p.19)を行う。	
第13回	Chapter 12: Sports Related Injuries and Conditio	記事の要旨をまとめる。医療単語の接頭辞と接尾辞
第14回	資料1: Smoking Tobacco Is Suicide	長文を速読し、タバコの害を知る。
第15回	資料2: The AIDS Concerns Everyone	

■受講生に関わる情報および受講のルール

英文読解では音読がとても役立ちます。単語の意味がわからなくても、とにかく二回は音読をして授業に臨んで下さい。そして発表担当者は英文の字面だけ訳すのではなく、自分の言葉でわかりやすく内容を伝える努力をして下さい。聞き取りやペアワークは、英語を聞いたり話したりする貴重なチャンスと考え、耳と口を十分に働かせて下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験により総合的に判断する。

■教科書

English for Medicine KINSEIDO

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ科学原理	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・養護教諭 一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	健康の維持増進の手段としての運動の科学的基礎とその応用について学習する。				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動の原理原則を理解し、適切に行うための運動に関する有効な方法を把握し、その効果的な運動の実施方法を学習する。

[到達目標]

学習を通して健康の大切さや生活意欲を向上させることができるようになることを目的とする。

■授業の概要

体の機能、メカニズム、大別された2種類の運動や怪我のおこる仕組みを理解し、自己管理の重要性を確認する。スポーツを通じてのコミュニケーション能力も身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション (運動の身体に及ぼす影響)
第2回	運動と体力・健康づくり (体力分類)
第3回	健康のための各種運動と体力づくり (ウォーミングアップ・クーリングダウン)
第4回	運動の習慣づけ (3つの運動 生活習慣病予防)
第5回	スポーツコミュニケーション (実技 ①)
第6回	運動と体力・健康づくり (運動エネルギー)
第7回	スポーツの外傷と障害・予防と対応
第8回	スポーツコミュニケーション (実技 ②) まとめ・評価

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は資料プリントで行う。出席を常とし積極的に授業に取り組むこと。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用は禁止。実技は指定のジャージを着用。装飾品は厳禁、肩にかかる髪は束ねる。

■授業時間外学習にかかわる情報

日常生活の中に自分に合ったスポーツを取り入れ継続する。そのためには生活時間を有効に工夫することが必要である。積極的に身体活動を実践して、精神・心理的に安定した豊かな生活を送ること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 学習意欲 30% (姿勢・積極性・実技の理解)

■教科書

資料プリントで対応。

■参考書

随時検討する。

科目名	人体構造機能学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	解剖学、生理学、細胞、組織、血液、免疫				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	解剖学・生理学とは、解剖学的用語
第2回	ホメオスタシスとフィードバック機構
第3回	細胞の構造
第4回	細胞の機能
第5回	上皮組織
第6回	支持組織
第7回	筋組織
第8回	神経組織
第9回	体内の膜
第10回	皮膚
第11回	体温産生と体温
第12回	血液の成分と機能
第13回	造血、凝結と線溶、血液型と輸血
第14回	自然免疫機構
第15回	獲得免疫機構

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能① 解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	骨と骨格
第2回	頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格
第3回	関節の構造と機能
第4回	筋の種類と機能
第5回	骨格筋の解剖生理
第6回	筋、骨格筋系のまとめ
第7回	心臓の構造
第8回	心臓の機能
第9回	血管の形態と機能
第10回	リンパ系の器官と機能
第11回	循環器系の確認テストと解説
第12回	呼吸器系の構造と機能
第13回	肺の名称と肺胞の構造と機能
第14回	呼吸のプロセスと調節
第15回	呼吸器系の確認テストと解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	食欲の調節機構
第2回	口腔の構造と機能
第3回	咽頭・食道の構造と機能
第4回	胃の構造と機能
第5回	小腸の構造と機能
第6回	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能
第7回	糖質・脂質・蛋白質・ビタミンの消化と吸収
第8回	排泄 大腸の構造と機能
第9回	消化器系の確認テストと解説
第10回	腎臓の構造と機能
第11回	尿の生成、血液成分の調節
第12回	尿管・膀胱・尿道の構造と機能
第13回	排尿の生理
第14回	泌尿器系の確認テストと解説
第15回	消化器系及び泌尿器系のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	内分泌系とホルモンの作用機序
第2回	脳にあるホルモン分泌器官Ⅰ
第3回	脳にあるホルモン分泌器官Ⅱ
第4回	甲状腺のホルモンの機能
第5回	上皮小体のホルモンの機能
第6回	副腎のホルモンの機能
第7回	膵臓のホルモンの機能
第8回	消化管のホルモンの機能
第9回	内分泌系の確認テストと解説
第10回	生殖と生殖器の概念と特徴
第11回	女性生殖器の構造と性周期
第12回	妊娠と出産
第13回	男性生殖器の構造と機能
第14回	勃起と射精
第15回	生殖器系の確認テストと解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	生化学	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	糖質、脂質、タンパク質、核酸、ビタミン、酵素、補酵素				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、生化学を理解できる。
2. 生化学を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の生化学について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で生化学を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	糖質とは
第2回	糖代謝
第3回	脂質とは
第4回	脂質代謝
第5回	タンパク質とは
第6回	タンパク質代謝
第7回	核酸、水と無機質
第8回	血液と尿
第9回	核酸代謝、ポルフィリン代謝
第10回	代謝の異常
第11回	ホルモンと生理活性物質
第12回	酵素
第13回	ビタミンと補酵素
第14回	遺伝情報
第15回	先天性代謝異常

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

三輪 一智、中 恵一:系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能② 第12版 医学書院

■参考書

なし

科目名	看護学概論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	中溝 道子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	人間・環境・健康・生活・看護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

看護とは何かを探究するとともに、看護学を構成する主要概念としての人間・環境・健康・生活の理解を深め、看護学を学ぶ基礎を身につける。

〔到達目標〕

- ①‘看護とは何か’が理解できる。
- ②看護の独自性・専門性が理解できる。
- ③看護の対象である人間はどのような存在であるか理解できる。
- ④健康の法則について理解できる。
- ⑤人間と環境との関係について理解できる。
- ⑥看護の役割・機能について理解できる。

■授業の概要

1. 学生自身の体験を通して「看護とは何か」「健康とは何か」「病気とは何か」を考え、理論と結びつけて教授する。
2. すべての人間は共通性と個性をもった唯一無二の存在であることおよび人間の可能性を考える機会とする。
3. 学生自身の生活を通し、「生活とはなにか」「環境とは何か」について教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、看護学概論で何を学ぶのか
第2回	看護とは何か—看護の原点・歴史の変遷
第3回	看護とは何か—看護の概念および定義に関する諸説
第4回	看護とは何か—『Notes on Nursing』 看護の専門性・独自性とは
第5回	看護の対象である人間はどのような存在か—人間であることとは
第6回	看護の対象である人間はどのような存在か—統合体としての人間
第7回	看護の対象である人間はどのような存在か—人間のライフサイクルと発達課題
第8回	看護の対象である人間はどのような存在か—人間の生活
第9回	人間と環境—環境とは・生活と環境との相互作用
第10回	健康と看護—健康の法則・健康の定義・健康に影響する要因
第11回	健康と看護—健康に生きるとは
第12回	病気とは—看護の視点で考える
第13回	病気とは—人間が病むとは
第14回	看護実践の質を保障するために求められる能力とは
第15回	看護の役割・機能について

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。分からない部分を授業で解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70%、レポート 30%。

■教科書

茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ看護学概論 基礎看護学①，医学書院
F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井坦子他訳）：看護覚え書，現代社，2013
時実利彦：人間であること，岩波新書，2013

■参考書

授業中に適宜紹介。

科目名	看護学概論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	菅沼 澄江	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	保健医療システム・教育とキャリア開発・制度政策・看護倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

看護職や看護職が協働する医療職の役割、チームのあり方、協働と連携、倫理について深く学び、看護者としての基礎的知識と内的規範を身につける。

〔到達目標〕

- ①チーム医療に携わる様々な職種を把握し、チームの機能を理解できる。
- ②看護サービスの提供の場と、それぞれの場における看護の果たす役割について理解できる。
- ③看護に関わる様々な法制度を理解できる。
- ④看護倫理をめぐる社会的背景を理解し、看護職者としての内的規範を身につける。

■授業の概要

1. 看護の機能する場・就業状況・看護管理システムについて教授する。
2. 保健・医療・福祉が地域で生活している人々にどのように関わっているかを身近なものとして繋げて具体的に教授し、看護職の果たす役割について考える機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、看護職者の教育とキャリア開発
第2回	看護の機能する場と役割および看護職の就業状況
第3回	看護職者の教育と養成制度
第4回	保健医療福祉システムと看護
第5回	看護管理—看護管理システム・組織・看護サービスにおけるマネジメント
第6回	看護をめぐる制度・政策
第7回	看護における倫理〔1〕
第8回	看護における倫理〔2〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。分からない部分を授業で解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。）

■教科書

茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野I看護学概論 基礎看護学①, 医学書院
F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井坦子他訳）：看護覚え書, 現代社, 2013

■参考書

授業中に適宜紹介。

科目名	基礎看護援助技術I	担当教員 (単位認定者)	小林 洋子 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	共通基本技術 感染予防 コミュニケーション 観察 教育指導				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

看護における共通基本技術に必要な知識を学び、基本技術を習得できる。

〔到達目標〕

1. 看護技術とはどのようなものか理解できる。
2. 感染予防の基礎的知識を理解し、衛生学的手洗いができる。
3. 人間関係を発展させるための技術を修得できる。
4. 療養生活の場での環境と環境調整の技術が習得できる。
5. 看護における観察の重要性を理解し、正確に生命徴候の観察技術を修得できる。

■授業の概要

看護学概論と基礎看護援助技術との関連を学習し、一つ一つの援助技術が科学的根拠に基づき、援助を受ける対象にとって看護に繋る技術になっているか問題意識と探究心を持って各看護技術を修得できるように進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 看護技術総論
第2回	感染予防の技術 [1] 感染予防の基礎知識
第3回	感染予防の技術 [2] 衛生学的手洗い (演習)
第4回	人間関係を発展させる技術 [1] コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程一
第5回	人間関係を発展させる技術 [2] コミュニケーションの基本・コミュニケーション障害への対応一
第6回	人間関係を発展させる技術 [3] 効果的なコミュニケーションの実際 (演習)
第7回	環境調整の技術 [1]
第8回	環境調整の技術 [2] (演習) ベッドメイキング
第9回	環境調整の技術 [3] (演習) ベッドメイキング
第10回	環境調整の技術 [4] (演習) シーツ交換
第11回	環境調整の技術 [5] (演習) シーツ交換
第12回	観察 バイタルサイン [1]
第13回	観察 バイタルサイン [2]
第14回	観察 バイタルサイン [3] (演習) バイタルサイン測定
第15回	観察 バイタルサイン [4] (演習) バイタルサイン測定

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・演習は白衣・ナースシューズを着用。頭髪・爪・化粧は「実習室使用の手引き」に準じる。
(身支度をきちんとすること。身支度が整わない場合は受講を認めない)
- ・講義までに事前学習課題を学習して臨むこと。

〔受講のルール〕

- ・他の受講生の迷惑になる行為は厳禁(私語・携帯電話の使用)。

■授業時間外学習にかかわる情報

看護技術の修得は、何回も繰り返して演習し習得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(70%)、技術試験(30%)。

■教科書

1. 有田清子他:基礎看護技術I 医学書院

■参考書

三上りつ・小松万喜子編集:演習・実習に役立つ基礎看護技術、NOVELLE HIROKAWA

科目名	基礎看護援助技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	石川 文江 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	衣生活 安全安楽 活動休息 栄養 食事				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

日常生活に伴う援助技術が理解でき、習得できる。

〔到達目標〕

1. 衣生活の意義が理解でき、状況に合った寝衣交換の援助技術が習得できる。
2. 安楽の原則が理解でき、根拠を考え、安楽に関する援助技術が習得できる。
3. 基本的活動の基礎知識が理解でき、活動に伴う援助技術が習得できる。
4. 睡眠と休息の援助の基本知識が理解でき、睡眠休息の援助技術が習得できる。
5. 食事援助の基本知識が理解でき、食事援助・口腔ケアの援助技術が習得できる。
6. 非経口的栄養摂取の援助技術が理解できる。

■授業の概要

日常生活の援助の中で、人間の身体の機能を力学的に学び、人間の基本的な体位、体位変換、身体の移動や移乗・移送の技術を学ぶ。睡眠の意義が理解でき、睡眠に関する援助が出来る。人間にとっての栄養の重要性を理解し、食事の援助及び口腔ケアや経口的摂取の困難な場合、栄養摂取のための方法を理解する。寝衣に関する材質、形等を考え、状態に合った寝衣交換の援助が出来る。安楽に関して、根拠を基に援助が出来る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション①活動休息の援助技術
第2回	②活動休息の援助技術(演習) ボディメカニクスと安楽な体位
第3回	③活動休息の援助技術(演習) ①移動・体位変換
第4回	④活動休息の援助技術(演習) ②移動・体位変換
第5回	⑤活動休息の援助技術(演習) 移乗・移送
第6回	⑥活動休息の援助技術 睡眠
第7回	①衣生活援助技術
第8回	②衣生活援助技術(演習) 寝衣交換
第9回	③衣生活援助技術(演習) 寝衣交換
第10回	①食事の援助技術
第11回	②食事の援助技術(演習) 食事介助・口腔ケア
第12回	③食事の援助技術(演習) 食事介助・口腔ケア
第13回	①安楽の援助技術 電法・ポジショニング
第14回	②安楽の援助技術 電法(演習)
第15回	③安全確保の技術

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は白衣を着用(身支度をきちんとすること。身支度が整わない場合は受講を認めない)。

講義までに事前学習課題を学習して臨むこと。

技術は何回も繰り返して演習して習得すること。

〔受講ルール〕

他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。常に教科書は持参すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前学習の課題については必ず提出し、授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

看護技術の習得に関しては、再学習して修得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(70%)、技術試験(30%)。

■教科書

1. 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 医学書院
2. 三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 NOUVELLE HIROKAWA

■参考書

授業にて、紹介する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	民主主義、自由主義、人権、知的財産 医療過誤				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会では、人は法の保護と規制のもとで生活している。わが国の基本法である憲法、民法、刑法を中心に医療過誤を含め、判例等を参考にして、法的な考え方を学び、問題解決能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①社会生活をしていく上での基本的法律を理解する。
- ②法的思考、考え方を身につける。
- ③医療従事者としての問題解決能力を身につける。

■授業の概要

法の特徴を学び、憲法の基本原理、統治機構、人権保障の具体的事例を取り上げる。また、生活に直接かかわる民法、刑法の理解を深めるとともに、知的財産、医療過誤、国際法等についても触れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 法の意義・種類・歴史・法形式
第2回	日本国憲法(基本原理)
第3回	日本国憲法(統治機構1)
第4回	日本国憲法(統治機構2)
第5回	日本国憲法(人権保障1)
第6回	日本国憲法(人権保障2)
第7回	民法(総則・物権)
第8回	民法(債権)
第9回	民法(親族・相続)
第10回	刑法(総論)
第11回	刑法(各論)
第12回	労働法、社会保障法
第13回	知的財産法
第14回	医療と法
第15回	国際社会と法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・板書、口述の内容はノートに整理しておくこと。
- ・小論文、レポートは必ず提出すること。
- ・欠席が、5回を超えると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習復習は、予習を重点に行うこと。法律問題の新聞・テレビ等に関心を持つこと。

■オフィスアワー

授業後30分

■評価方法

定期試験、小論文、レポートを総合的に評価する。(目安) 定期試験70%、小論文・レポート30%。

■教科書

「法学」 松尾浩也・高橋和之著 有信堂

■参考書

小六法(小型版)で有斐閣「ポケット六法」か三省堂「模範六法」。
担当者配付の「新しい人権の判例」、他はシラバスで紹介。

科目名	論語	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	論語・孔子・朱子・論語集注・王陽明・中国・江戸時代				

■授業の目的・到達目標

本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。仁とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。本講義では『論語』を通じて人としてのあるべき姿を考察していく。

■授業の概要

各時代の知識人がどのように『論語』を理解したか具体例を挙げ解説していく。論語という古典を用いて、「考える(思想)」とは何かを考察する。「己が思索するとはどういうことか?」を受講生に問う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、受講の際の注意。
第2回	論語概説
第3回	孔子の回想I(人生における「志」の重要性) 為政篇第4章
第4回	孔子の回想II(孔子の「志」を人々はどのように理解したか) 為政篇第4章、王陽明「示弟立志説」
第5回	論語に見る日常漢語(日本語の語彙として論語の言葉を読む)
第6回	己を見限るのは己自身(自己の限界とは) 雍野篇第10章、「教」の可能性(人には出来不出来などない) 衛霊公篇第38章
第7回	人は変わることが可能か、陽貨篇第2・3章
第8回	孔子と障害者、衛霊公篇第41章。孔子と不治の病、雍野篇第8章
第9回	論語に見る「悪」I(「悪」の字をどう読むか) 里仁篇第3・4章
第10回	論語に見る「悪」II(仁者は「悪が無い」のか「悪むことが無いのか」) 里仁篇第3・4章
第11回	仁者とは如何なる人かI(三者三様の行動から) 微子篇第1章
第12回	仁者とは如何なる人かII(司馬遷の疑問) 述而篇第14章、『史記』伯夷列伝
第13回	仁者の気象I、雍野篇第8章
第14回	仁者の気象II、(宋明性理学に於ける「仁」の展開-万物一体の仁-) 雍野篇第8章
第15回	論語と自己陶冶(社会福祉・看護に従事する者として、如何に自己を向上させるか) 顔淵篇第1章

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、「人が学び続けるとはどういう意義か」を、自己に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ②周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①論語を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学に於ける学問様式を理解すること。
- ②授業計画に示されている章は必ず一読し、理解をして授業に臨むこと。不明の部分は授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験 70%、平常点(受講態度、課題など) 30%。

■教科書

鈴木利定監修・中田勝編著『注解 書き下し 論語全文(付・原文)』明治書院、平成16年10月

■参考書

宇野哲人『論語新釈』講談社学術文庫、1980年1月。金谷治『論語』新訂版、岩波文庫、1999年11月。他は講義中に適宜紹介する。

科目名	社会学	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	社会学				

■授業の目的・到達目標

社会学の学説史、理論史を十分に踏まえながら、現代社会学の動向と展開を、最新の動向を中心として分析しながら「講義の流れ」にそって、考察を進める。学生はそれぞれの問題意識に応じて、個別の社会学のテーマを追求することを学習の目的とする。

■授業の概要

現代社会が求めている問題の理論的・実践的解明を社会学の視点から整理する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	社会学について
第2回	社会理論と社会システム
第3回	近代的家族と現在家族の特徴
第4回	農村と都市の変遷
第5回	ジェンダー論
第6回	少子高齢化社会と福祉
第7回	大衆社会
第8回	共生時代(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・板書、口述の内容を整理しておくこと。
- ・欠席は3回を超えると定期試験の受験資格を失う。
- ・授業は「授業計画」通り進まない場合もあるので、承知しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

レポート作成・配布資料に目を通しておくこと。

■オフィスアワー

木曜日の空き時間に講師控室で応答する。

■評価方法

定期試験 80%、課題提出と授業態度等 20%で総合評価する。

■教科書

授業時に資料を配布する。

■参考書

船津 衛編著『21世紀の社会学』 日本放送出版協会

科目名	医療英語	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「外国語」			
キーワード	医療英語				

■授業の目的・到達目標

1. 臨床場面での基本表現が理解できる。
2. 会話の中で、キーワードを聞き取ることができる。
3. 現場で初歩的な応答ができる。

■授業の概要

音声に重点をおき聴き取りや発信練習を行う。看護現場の会話のCDで穴埋め問題や口頭練習を行い、医療関連の用語や表現及び情報収集のための質問表現などを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	Lesson 1: In the Lobby of the Hospital	診療科名
第2回	Lesson 2: Registration	診療申込書の項目
第3回	Lesson 3: Checking the Registration Card	診療申込書記入のために必要な質問
第4回	Lesson 4: Finding the Way	診療科名と院内の道案内
第5回	Lesson 6: Daily Activity	日常生活についての質問
第6回	The Old Time Pain Reliever on p.33	読解のための図やメモの利用
第7回	Lesson 7: More about Daily Activities	症状
第8回	Lesson 8: Asking about Symptoms	痛みの種類と程度
第9回	Lesson 9: More about Symptoms	病名
第10回	Music During Surgery ?	医療分野における音楽の効用
第11回	Lesson 10: Checking Blood Pressure and Weight	測定時の指示
第12回	Lesson 11: Laboratory Specimens	検査名の発音
第13回	検査名のパズル	英文の説明と検査名を結びつける
第14回	Lesson 12: Taking Medicines	薬の服用時の指示と注意事項
第15回	Can Doctors' Pens Carry Disease-Causing Organisms?	英文記事の構造

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の予習として、各課のUseful Expression の中の三つの表現を口頭で言えるようにしておいて下さい。そして毎回、集中して聴き取りに挑戦してください。音声重視の授業のため、聴き取りの妨害となる私語は厳禁です。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席や遅刻回数、レポート提出状況を考慮し、定期試験で評価する。

■教科書

How are you feeling? (SEIBIDO)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ演習	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭一種・二種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	スポーツ活動が健康に及ぼす効果を学習し、健康的な生活を生涯にわたって身に付ける知識を体験を通して学習する。				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

明るく豊かな人生を送るために生涯にわたって実施できる運動やスポーツの楽しさと必要性を体験を通して学習する。

[到達目標]

幼児から高齢者・障がい者までの、健康・体力・興味・関心など様々な要求に応じた運動やスポーツが、日常生活の中で継続的に行えるような状態を創り出せるようになる。

■授業の概要

各種運動の実践を通して身体統御の方法を身につけ、チームの一員、仲間としての自覚をもち、社会生活のなかで規則やルールを守り、精神力や体力を養い、人間関係の円滑化を図れるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目 オリエンテーション(班づくり A、B2班に分ける・コミュニケーションゲーム)	
第2回	持久走(12分間走)	
第3回	A班 バレーボール	B班 ソフトボール
第4回	A班 バレーボール	B班 ソフトボール
第5回	A班 バレーボール	B班 ソフトボール
第6回	A班 ソフトボール	B班 バレーボール
第7回	A班 ソフトボール	B班 バレーボール
第8回	A班 ソフトボール	B班 バレーボール
第9回	A班 バasketボール	B班 フットサル
第10回	A班 バasketボール	B班 フットサル
第11回	A班 バasketボール	B班 フットサル
第12回	A班 フットサル	B班 バasketボール
第13回	A班 フットサル	B班 バasketボール
第14回	A班 フットサル	B班 バasketボール
第15回	成果発表 種目別大会実施	

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は指定のジャージを着用する。肩にかかる髪は束ねる。装飾品は厳禁。積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑になる行為は厳禁(やる気のない態度や暴言)。出席を常とし、遅刻をしないこと(遅刻3回で欠席1回とカウントする)。

■授業時間外学習にかかわる情報

日常生活の中に自分に合ったスポーツを取り入れ継続する。そのためには生活時間を有効に工夫し、積極的に身体活動を実践することを期待する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

学習した種目の実技テスト 80% 学習意欲 20% (グループ内での関わり方及び出席率)

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	人体構造機能学Ⅴ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	神経組織の構造と機能に基づく分類	神経組織の構造と機能(神経細胞)
第2回	神経組織の構造と機能(情報の伝達・興奮の伝導・シナプス伝達・反射)	
第3回	中枢神経系の構造と機能(大脳・間脳・脳幹)	
第4回	中枢神経系の構造と機能(小脳・脊髄・中枢神経系を保護する組織、伝導路)	
第5回	末梢神経系の構造と機能(脳神経)	
第6回	末梢神経系の構造と機能(脊髄神経・体性神経系)	
第7回	末梢神経系の構造と機能(自律神経系)	生体のリズム
第8回	神経系の確認テストと解説	
第9回	感覚器の種類と特徴	
第10回	視覚・聴覚の構造と機能	
第11回	平衡覚器の構造と機能	嗅覚と嗅覚受容器の構造と機能
第12回	体性感覚器と内臓感覚器の構造と機能	
第13回	感覚器系の確認テストと解説	
第14回	神経系と感覚器系のまとめ	
第15回	解剖実習	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	疾病・治療論総論	担当教員 (単位認定者)	川手 進・神谷 誠・竹吉 泉・ 三浦 雅文・吉田 大作	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論総論				

■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

■授業の概要

疾病の発生機序と人体に及ぼす影響を学び、回復を助けるための治療方法として、リハビリテーション、放射線療法、手術療法などについて学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	細胞・組織に生じる変化1 代謝障害
第2回	細胞・組織に生じる変化2 循環障害
第3回	細胞・組織に生じる変化3 炎症と免疫
第4回	細胞・組織に生じる変化4 腫瘍
第5回	個体の変化に影響する条件1 先天異常
第6回	個体の変化に影響する条件2 老化のメカニズム
第7回	生命の危機的状況①: ショック、火傷、熱傷、DIC・MOF
第8回	生命の危機的状況②: 死について
第9回	がんの治療1 手術療法
第10回	がんの治療2 化学療法
第11回	がんの治療3 放射線治療総論
第12回	がんの治療4 放射線治療各論
第13回	リハビリテーション1 リハビリテーションの基礎 (ADL評価、廃用症候群、各種制度など)
第14回	リハビリテーション2 リハビリテーションの実際 1
第15回	リハビリテーション3 リハビリテーションの実際 2

■受講生に関わる情報および受講のルール

まず、私語は厳禁とする。注意しても私語の止まないものは、退席させる。本講義は、概論的内容であるため、各疾患に関して学習するときのベースとなる内容であることを十分理解して取り組むこと。各授業ごとにノートを整理し、各自が内容を関連付けて学習することが必要である。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

各講師の授業終了直後に質問すること。

■評価方法

筆記試験による。(定期テスト、課題レポートにより総合的に評価する。)

■教科書

ナーシング グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 (2年生でも使用)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	浜田 邦弘・金子 和光 林 伸宇	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

■授業の概要

消化器系・腎泌尿器系・内分泌系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス、消化器系疾患の理解と治療1 食道・胃の疾患の治療①
第2回	消化器系疾患の理解と治療2 食道・胃の疾患の治療②
第3回	消化器系疾患の理解と治療3 肝臓・胆嚢の疾患と治療
第4回	消化器系疾患の理解と治療4 腸の疾患と治療①
第5回	消化器系疾患の理解と治療5 腸の疾患と治療②
第6回	腎泌尿器系疾患の理解と治療1 腎機能障害のある疾患とその治療①
第7回	腎泌尿器系疾患の理解と治療2 腎機能障害のある疾患とその治療②
第8回	腎泌尿器系疾患の理解と治療3 人工透析、腎臓の手術
第9回	腎泌尿器系疾患の理解と治療4 泌尿器系の疾患と治療① 前立腺の疾患
第10回	腎泌尿器系疾患の理解と治療5 泌尿器系の疾患と治療② その他の疾患
第11回	内分泌系疾患と治療1 病態生理の理解と主な治療① パセドウ病・原発性アルドステロン症等
第12回	内分泌系疾患と治療2 病態生理の理解と主な治療② 副腎脂質ホルモン異常など
第13回	内分泌系疾患と治療3 病態生理の理解と主な治療③ 糖尿病
第14回	内分泌系疾患と治療4 病態生理の理解と主な治療④ 脂質代謝異常、痛風等
第15回	内分泌系疾患と治療5 病態生理の理解と主な治療⑤ その他の代謝異常 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。
人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。
授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了直後に、各講師に質問すること。

■評価方法

筆記試験 100% (定期テスト、課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎泌尿器
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌:医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神戸 将彦・栗原 卓也・ 高野 峻一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

■授業の概要

循環器系・呼吸器系・血液・造血器系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス、循環器系疾患の理解と治療1 心筋梗塞、狭心症
第2回	循環器系疾患の理解と治療2 高血圧、心不全、先天性心疾患
第3回	循環器系疾患の理解と治療3 心筋疾患、心臓弁膜症
第4回	循環器系疾患の理解と治療4 大動脈瘤他、心臓の検査
第5回	循環器系疾患の理解と治療5 主な治療(ペースメーカー、手術療法など)
第6回	呼吸器系疾患の理解と治療1 肺がんの理解と内科的療法
第7回	呼吸器系疾患の理解と治療2 肺がんの理解と外科的療法
第8回	呼吸器系疾患の理解と治療3 肺炎、気管支炎
第9回	呼吸器系疾患の理解と治療4 気管支喘息、結核
第10回	呼吸器系疾患の理解と治療5 主な治療
第11回	血液・造血器系疾患の理解と治療1 血液疾患の特徴と症状
第12回	血液・造血器系疾患の理解と治療2 白血病
第13回	血液・造血器系疾患の理解と治療3 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
第14回	血液・造血器系疾患の理解と治療4 DIC、紫斑病、再生不良性貧血など
第15回	血液・造血器系疾患の理解と治療5 輸血療法他主な治療 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了直後に、各講師に直接質問すること。

■評価方法

筆記試験 100%(定期テスト、課題レポート、確認テストにより総合的に評価する。)

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ循環器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器
系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病感染症、系統看護学講座 専門分野Ⅱ血液:医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	微生物学	担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	微生物学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病気の原因となる微生物の基礎的な性質、感染と発症のメカニズム、化学療法、感染予防対策等について、医療従事者として必要な知識を身につける。特に看護師による院内感染の予防対策は重要である。院内感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行えるよう、その基盤となる知識を習得する。

〔到達目標〕

- ①微生物とはどのような生物なのか、その種類と性質について理解する。
- ②感染とその防御機構について理解する。
- ③主な病原微生物の性質と病気等について理解する。

■授業の概要

近年、微生物学分野における著しい発展の反面、SARSの流行や新型インフルエンザの出現、さらにはMRSAなど難治性の薬剤耐性菌による院内感染や日和見感染症の急増など、感染症の種類やその様相は著しく変貌している。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の一般的性質及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を学習する。各論では免疫低下に因る日和見感染症、耐性菌による院内感染症、人畜共通感染症、輸入感染症などについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	微生物と微生物学
第2回	細菌学総論① 細菌の形態と特徴
第3回	細菌学総論② 細菌の増殖、遺伝、分類、常在細菌叢
第4回	ウイルス学総論① 形態と構造、分類
第5回	ウイルス学総論② 培養と増殖、遺伝
第6回	真菌学総論 形態と特徴、増殖、分類
第7回	原虫学総論 形態と特徴、増殖、分類 滅菌と消毒
第8回	感染症と発病 感染の機構、感染の成立から発症・治療
第9回	細菌学各論① グラム陽性球菌からグラム陽性無芽胞桿菌
第10回	細菌学各論② グラム陰性菌
第11回	細菌学各論③ 抗酸菌、放線菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア
第12回	ウイルス学各論① DNAウイルス
第13回	ウイルス学各論② RNAウイルス
第14回	その他の感染(真菌、原虫)
第15回	講義全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト(20%)、学期末定期試験(80%)等で評価します。

■教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ ISBN 978-4-260-00673-6

■参考書

東匡伸、小熊恵二編: シンプル微生物学、南江堂 ISBN978-4-524-23978-8

科目名	栄養学	担当教員 (単位認定者)	木村 順子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	栄養素、消化酵素と基質分解産物、活動代謝、日本人の食事摂取基準、栄養状態の評価判定法、栄養補給法、疾患別食事療法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

看護業務に必要な栄養学の基本的な知識を身につける。

[到達目標]

- ・栄養素の種類とはたらき、食物の消化、吸収、代謝について理解できる。
- ・エネルギー代謝について理解し、エネルギー消費量の計算ができる。
- ・日本人の食事摂取基準について理解できる。
- ・乳幼児期から高齢期における栄養の関係について理解できる。
- ・栄養補給法の種類と特徴を理解できる。
- ・各種疾患、症状別食事療法の基本を理解できる。
- ・実践可能な分野は自らの日常生活にいかす。

■授業の概要

栄養学は生涯を通じて健康を保持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を授業計画のスケジュールに沿って進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき
第2回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝
第3回	エネルギー代謝 ・食事と食品
第4回	栄養ケア、マネジメント ・栄養状態の評価、判定
第5回	ライフステージと栄養
第6回	臨床栄養（チームで取り組む栄養管理、栄養補給法、病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤、循環器疾患患者の食事療法）
第7回	臨床栄養（消化器疾患、栄養、代謝疾患、腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患患者の食事療法）
第8回	臨床栄養（骨粗鬆症、咀嚼嚥下障害患者の食事療法、場面別の栄養管理、がんの食事療法） ・健康づくりと食生活

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・他の教科との関連を理解する。
- ・教科書は、授業内容に合わせ、あらかじめ読んでおき、理解を深めておく。
- ・私語等受講生の迷惑になる行動は慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・テキスト章末のゼミナール、配布する復習問題に取り組む。
- ・課題は指示された日程までに完成し、提出すること。

■オフィスアワー

- ・授業の前後。

■評価方法

定期試験（80%）及び課題提出（20%）をもとに総合評価する。

■教科書

著者代表 中村丁次 系統看護学講座専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能[3] 医学書院

■参考書

著者代表 中村丁次 系統看護学講座別巻 栄養食事療法 医学書院

科目名	病理学	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	細胞障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常、先天異常、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ②基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常、先天異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、今後の学習や将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えるべき内容が多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	解剖学の復習
第3回	病因
第4回	細胞障害
第5回	循環障害 I
第6回	循環障害 II
第7回	炎症
第8回	免疫、アレルギー
第9回	腫瘍 I
第10回	腫瘍 II
第11回	腫瘍 III
第12回	代謝異常、糖尿病
第13回	先天異常
第14回	感染症
第15回	補足、講義のまとめ、試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・学習した範囲の解剖学の復習をして、病理学の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士2人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を1冊ずつ用意すること。
- ・病理学の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。
- ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。
- ・読書の習慣を身につける。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。月に2回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。

■オフィスアワー

講義の前後。それ以外はE-mail (t.maejima@nagano-hosp.go.jp) で。

■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、レポート20%。

■教科書

クイックマスター病理学(サイオ出版)

■参考書

解剖学の教科書

科目名	臨床薬理薬物論	担当教員 (単位認定者)	新井 篤	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	臨床薬理薬物論				

■授業の目的・到達目標

Ptが、受けている薬物療法を安全に行えるよう臨床病態と関連づけながら使われている薬の作用や副作用などを正しく理解することができる。

■授業の概要

薬理作用の基礎として、薬の作用原理・吸収・代謝・排泄などの機序を学び、その後、病態生理をおさえた上で臨床薬を中心にその薬理作用・治療法や使用上の注意点を学び臨床で活用できる知識を身に付けることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	今後の授業内容についてオリエンテーションを行う。および生理学復習。
第2回	薬理学 総論 薬理作用の基礎。薬の作用原理・受容体・吸収分布・代謝・排泄・相互作用・薬物中毒・副作用などを理解する。
第3回	薬理学 各論 末梢神経系と末梢神経作用薬について を学ぶ。
第4回	自律神経系薬物について を学ぶ。
第5回	中枢神経系作用薬について を学ぶ。
第6回	心血管系作用薬について を学ぶ。
第7回	呼吸器・消化器・生殖器系作用薬について を学ぶ。
第8回	抗感染薬について を学ぶ。
第9回	抗癌剤について を学ぶ。
第10回	免疫治療薬について を学ぶ。
第11回	抗アレルギー薬について を学ぶ。
第12回	抗炎症薬について を学ぶ。
第13回	物質代謝作用薬(糖尿病・甲状腺・骨粗鬆症)について を学ぶ。
第14回	皮膚科・眼科用薬について を学ぶ。
第15回	救急時用いられる薬物・消毒薬について を学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

各自ノートを取ること。
教科書および参考図書を良く読むこと。
教科書 参考書は必ず持参して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている教科書は必ず熟読し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。授業冒頭で学習理解度を知るためミニテストを行うこともある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 (客観・論述) 100%

■教科書

- ①系統看護学講座 専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進2 医学書院
- ②新井篤 著 栗原 卓也 監修 コメディカルのための薬理学 (株)アライ 発行
- ③治療薬マニュアル 医学書院

■参考書

南山堂 薬理学マニュアル

科目名	看護方法論I	担当教員 (単位認定者)	中溝 道子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	看護過程の構造				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

看護過程を展開する思考の道筋を理解し、既習の知識の統合と活用方法を理解する。

[到達目標]

1. 看護過程の構造が理解できる。
2. 看護の目的に照らし、人間を統合的に把握し、対象に必要な看護を導き出し計画的に実施・評価する思考の道筋を理解できる。
3. 看護を行う上で既習の知識を統合し活用する方法を身につける。

■授業の概要

看護過程を構成する要素とプロセス、看護過程を用いる事の意義について事例を基に教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、看護方法論Iで何を学ぶか、看護過程とは
第2回	看護過程の構成要素、看護過程展開の基盤となる考え方—問題解決過程・クリティカルシンキング
第3回	倫理的配慮と価値判断
第4回	看護過程の各段階—アセスメント(情報収集の方法と内容、情報分析)
第5回	看護過程の各段階—全体像の把握
第6回	看護過程の各段階—看護問題の明確化
第7回	看護過程の各段階—看護計画
第8回	看護過程の各段階—評価、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の私用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている教科書は必ず熟読し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業にて解決をするよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 課題レポート 30%

■教科書

茂野香おる:基礎看護技術I基礎看護学②、医学書院、2014
ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの、日本看護協会、2011

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	基礎看護援助技術Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	溝口 孝美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	清潔 排泄 感染予防				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

日常生活に伴う援助技術が理解でき、習得できる。

〔到達目標〕

1. 感染予防の根拠が理解でき、無菌操作の技術が習得できる。
2. 人間にとっての排泄の意義が理解でき、排尿、排便を促す援助技術が習得できる。
3. 排泄困難時の援助方法が選択でき、導尿・洗腸の援助技術が習得できる。
4. 身体の清潔の意義や湯温が身体に及ぼす影響が理解でき、清潔ケア（入浴・シャワー浴・清拭・足浴等）の援助技術が習得できる。

■授業の概要

前回の感染予防としての手洗いに引き続き、物品等の無菌操作について学ぶ。人間の生活習慣としての自然排泄について考え、自立にて排尿困難な場合の援助方法や無菌操作による導尿の技術を習得する。排便困難や検査・治療等の洗腸の技術を習得する。清潔に関しては、日常生活習慣に近づけるためのアセスメントに基づき、入浴、シャワー浴、洗髪、清拭等の清潔ケア援助及び評価が出来る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目のオリエンテーション①感染予防の技術
第2回	②感染予防の技術（演習）無菌物の取り扱い
第3回	③感染予防の技術（演習）手袋の装着・ガウンテクニック等
第4回	①排泄の援助技術
第5回	②排泄の援助技術
第6回	③排泄の援助技術（演習）便器・尿器の与え方・オムツ交換
第7回	④排泄の援助技術（演習）①導尿
第8回	⑤排泄の援助技術（演習）②導尿
第9回	⑥排泄の援助技術（演習）洗腸
第10回	①清潔の援助技術
第11回	②清潔の援助技術
第12回	③清潔の援助技術（演習）①清拭・足浴
第13回	④清潔の援助技術（演習）②清拭・足浴
第14回	⑤清潔の援助技術（演習）洗髪
第15回	⑥清潔の援助技術（演習）洗髪

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は白衣を着用（身支度をきちんとすること。身支度が整わない場合は受講を認めない）。

講義までに事前学習課題を学習して臨むこと。

技術は何回も繰り返して演習して習得すること。

〔受講ルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。

常に教科書は持参すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前学習の課題については必ず提出し、授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

看護技術の習得に関しては、再学習して修得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（70%）、技術試験（30%）。

■教科書

1. 有田清子他：基礎看護技術Ⅱ 医学書院
2. 三上れつ他：演習・実習に役立つ基礎看護技術 NOUVELLE HIROKAWA

■参考書

授業にて、紹介する。

科目名	基礎看護援助技術Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	溝口 孝美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	与薬 検査 呼吸・循環を整える 救命救急				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

診療における看護師の役割を学び、診療の介助における基本技術を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

1. 診療介助における援助技術が理解できる。
2. 生体検査・検体検査、ME器の看護の役割について理解できる。
3. 検体検査に必要な基礎的知識を理解し、血液検査における基本技術を習得する。
4. 与薬に必要な基礎的知識を理解し、与薬に対する基本技術を習得する。
5. 看護における健康教育の必要性について理解する。
6. 救急救命処置の技術基礎を理解できる。
7. 死への看取りの援助について理解する。

■授業の概要

医学的な問題を抱える対象に実施される診察・検査・治療における看護師の役割と診療に伴う看護に必要な基礎的知識、技術を教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	検査の介助技術 [1]
第2回	検査の介助技術 [2]	(演習) 血液検査 静脈血の採血方法
第3回	検査の介助技術 [3]	(演習) 血液検査 静脈血の採血方法
第4回	与薬の技術 [1]	(演習) 経口与薬 口腔与薬 直腸内与薬
第5回	与薬の技術 [2]	(演習) 筋肉内注射
第6回	与薬の技術 [3]	(演習) 筋肉内注射
第7回	与薬の技術 [4]	(演習) 静脈内注射演習
第8回	与薬の技術 [5]	(演習) 静脈内注射演習
第9回	呼吸・循環を整える技術 [1]	
第10回	呼吸・循環を整える技術 [2]	(演習) 酸素吸入療法、吸入療法
第11回	呼吸・循環を整える技術 [3]	(演習) 吸引、排痰ケア
第12回	救命救急の技術 [1]	
第13回	救命救急の技術 [2]	(演習) 一時救命処置 包帯法
第14回	健康教育指導技術	
第15回	看取りの援助技術	

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要に記載の通り。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 (70%)、演習態度 (10%)、レポート (20%)。

■教科書

1. 有田清子他: 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

■参考書

三上りつ・小松万喜子編集: 演習・実習に役立つ基礎看護技術、NOVELLE HIROKAWA

科目名	基礎看護学実習 I	担当教員 (単位認定者)	中溝 道子 他	単位数 (時間数)	1 (45)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	病院機能 患者療養生活の場 看護師の役割				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

医療看護の行われている場において、患者および患者をとりまく環境の理解を深め看護の実践がわかる。

[到達目標]

- 1) 病院機能の概略および病院における医療チームとその役割を理解する。
- 2) 入院患者の療養生活の場がわかる。
- 3) 入院患者とコミュニケーションをはかり、対象のおかれている立場を理解する。
- 4) 看護師の役割を理解する。

■実習履修資格者

看護学概論 I、II の単位認定の受験資格要件を満たしている。

■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 平成 27 年 11 月 9 日～13 日、11 月 16～20 日
2. 実習日数 5 日間
3. 時間数 45 時間

■実習上の注意

具体的内容については、看護学臨地実習共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。

■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学臨地実習共通要綱を参照すること。
2. 基礎看護学実習 I の実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。

科目名	精神看護学概論	担当教員 (単位認定者)	関根 正	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神保健 メンタルヘルス ライフサイクルと発達課題 看護モデル・対人関係論				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

人間の精神の発達を理解し、精神保健の概念から精神看護師の役割を知り、必要な知識を得る。

[到達目標]

- ①精神保健の定義と現代社会のメンタルヘルスの課題と対策を理解する。
- ②こころの仕組みと働きを理解する。
- ③精神機能と障害を理解する。
- ④ライフサイクルにおける危機と危機理論を理解する。
- ⑤地域精神保健看護を理解する。
- ⑥リエゾン精神看護と看護者のメンタルヘルスを理解する。

■授業の概要

さまざまな社会情勢における人間のメンタルヘルス上の問題を持つ人の看護を実践するために、精神看護の目的や対象を理解する。また、精神看護の意義及び役割機能や歴史的変遷を概観し、さらに精神看護に必要な理論を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	精神保健の定義・現代社会とメンタルヘルスの動向
第2回	こころの健康(こころの仕組みと働き:フロイト)
第3回	精神機能と障害
第4回	ライフサイクルと精神保健(エリクソン・ハヴィガースト)
第5回	ライフサイクルにおける危機と危機理論(カプラン)
第6回	精神科医療の歴史・法律
第7回	精神看護における人権-看護倫理と法
第8回	臨床におけるこころの健康と不健康
第9回	現代社会とメンタルヘルス(自殺の背景と対策)
第10回	現代社会とメンタルヘルス(依存症の背景と対策)
第11回	現代社会とメンタルヘルス(いじめ・犯罪の背景と対策)
第12回	地域で暮らす人のメンタルヘルス(犯罪・災害などの危機にある人のメンタルヘルス)
第13回	リエゾン精神看護と看護者のメンタルヘルス
第14回	地域精神保健看護
第15回	まとめ・質疑応答とコメント

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]

- ・メンタルヘルスにおける社会問題に着目し、あらゆる状況下にある人の「生きる力」を支えるために自ら思考する。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出し、自分の考えを述べ思考を発展させる学習姿勢で臨む。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする。

■教科書

川野雅資編集:精神看護学I「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2010
川野雅資編集:精神看護学II「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2010

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神看護学援助論I	担当教員 (単位認定者)	加藤 博之 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格・ 養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神を病む人の特徴 精神を病む人の治療・看護 日常生活 精神科リハビリテーション看護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神を病む人の特徴を知り、症状に合った治療ならびに看護の知識と援助を習得する。

〔到達目標〕

- ①精神看護の考え方を理解する。
- ②精神を病む人の特徴を理解する。
- ③精神を病む人の治療と看護を理解する。
- ④精神科リハビリテーション看護を理解する。
- ⑤地域精神保健活動に係るマンパワーの実際と課題を考えることができる。

■授業の概要

精神を病む人の特徴を理解し、精神機能の障害により日常生活に影響する要因を考えることができる。また、精神科リハビリテーションの視点で、その人らしい生活を営めるよう地域精神保健の活用方法について知識を深めることができる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	精神看護の考え方	片野 吉子	
第2回	精神を病む人の特徴と理解	↓	
第3回	精神を病む人の援助の基本		
第4回	精神症状と看護		加藤 博之
第5回	精神症状と看護	↓	
第6回	精神症状と看護		
第7回	精神症状と看護		
第8回	精神症状と看護		
第9回	精神症状と看護		
第10回	精神を病む人の治療と看護(薬物療法)	↓	
第11回	精神を病む人の治療と看護(精神療法・身体療法・集団療法)		片野 吉子
第12回	精神を病む人の治療と看護(作業療法・レクリエーション・SST)		↓
第13回	精神を病む人の治療と看護(SST)		
第14回	精神科リハビリテーション看護(病棟-外来-デイケア・ナイトケア-社会復帰施設)		
第15回	地域精神保健活動に係るマンパワーの実際と課題		
		↓	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕

- ・精神に関する科目、精神看護学概論で得た知識を繋げて学習する。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出す学習姿勢で臨む。
- ・演習では、体験を通して自分の感じたことや考えたことを積極的に表現する。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。演習は主体的に参加して学ぶ。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする。

■教科書

川野雅資編集：精神看護学I「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011
川野雅資編集：精神看護学II「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011
宮本真巳：看護場面の再構成、日本看護協会出版会、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	成人看護学概論	担当教員 (単位認定者)		単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	成人 経過別看護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の健康課題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。成人看護を理解し実践するうえで基礎となる概念を理解する。

〔到達目標〕

- ①成人の特徴として、成長発達、発達課題、健康問題、成人を取り巻く環境を理解する。
- ②成人期にある人の健康状態と看護の考え方を、健康の保持増進、急性期、慢性期、回復期、終末期の経過において理解する。

■授業の概要

グループワークを通して、成人の理解、健康障害の特徴、成人を取り巻く環境について理解する。成人看護の理解は、看護するうえで基礎となる概念を事例に照らして理解し、看護の方法を検討できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション グループワークの説明
第2回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔1〕
第3回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔2〕
第4回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔3〕
第5回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔4〕
第6回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔5〕 発表
第7回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔6〕 発表
第8回	成人期にある人々の特徴と取り巻く環境、健康問題
第9回	成人看護の目的と特性 成人期にある人々の健康の保持増進のための看護①
第10回	成人期にある人々の健康の保持増進のための看護②
第11回	事例に基づく健康の保持増進のための看護の理解
第12回	成人期の健康障害との経過の特徴 成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（慢性的な経過）
第13回	事例に基づく慢性的な経過をたどる人々の看護の理解
第14回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（急性的な経過）
第15回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（終末の経過）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・グループワークはリーダーを決め、計画的かつ主体的に取り組むこと。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を確認し、必要なテキストの準備を行って積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や私語、携帯電話の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業で解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）とし、60%を超えていることとする。

■教科書

- 1) 小松浩子他 系統看護学講座成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
- 2) 国民衛生の動向
- 3) 黒田裕子 よくわかる中範囲理論 学研

■参考書

- 1) 舟島なをみ 看護のための人間発達学 医学書院
- 2) 松本千明 健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版株式会社

科目名	高齢者看護学概論	担当教員 (単位認定者)	橋本 知子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者看護学、高齢社会、高齢化、保健医療福祉、医療制度、介護保険制度、権利擁護、高齢者虐待、エイジズム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢者看護を理解するための基礎知識を学ぶ。

〔到達目標〕

①老いを生きる高齢者その人に焦点を当て、エイジングや発達課題について理解する。②今日の高齢社会の諸相について統計的資料を活用して理解を深める。③高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。④高齢者の自立と権利を知り、それらを阻む虐待や拘束などの実態から高齢者を守るための諸制度について理解する。⑤ライフサイクルの最終段階における死の概念と支援について理解する。⑥高齢者看護の理念・定義の変遷等を知り、実践と責務について理解する。⑦高齢者の生活に影響を与える加齢変化を統合的にとらえ高齢者看護の基礎知識を修得する。

■授業の概要

今日の高齢社会の諸相を統計的側面で大局的にとらえ、人間の加齢過程を把握し、高齢者の発達段階・課題を知る。また、高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。それらを通して、高齢者看護の理念並びに高齢者看護の視点で洞察することができるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション①老いの概念②加齢過程と新しいモデル③高齢者の発達段階・課題
第2回	高齢社会と社会保障①高齢社会の統計的輪郭(少子高齢化、高齢者の健康状態、暮らし等)
第3回	②保健医療福祉の動向(ソーシャルサポート:フォーマル、インフォーマル等)
第4回	保健医療福祉システム構築①高齢者保健医療・福祉制度の変遷②高齢者福祉の創設
第5回	③老人医療費の増加④保健医療福祉の連携と在宅サービス⑤高齢者医療制度改革
第6回	⑥介護保険制度創設⑦高齢者医療確保法 小テスト①
第7回	⑧介護保険制度の改正⑨介護保険制度の理念・しくみ・サービス・予防
第8回	⑩高齢者を支える職種・活動の場・専門化⑪保健医療福祉施設⑫介護家族
第9回	高齢社会の権利擁護①スティグマと差別②エイジズム③権利擁護(アドボカシー)
第10回	④高齢者虐待⑤身体拘束⑥権利擁護のための制度(成年後見制度、日常生活自立支援事業)
第11回	高齢者看護の理念①老年看護の成り立ち②老年看護の定義と変遷 小テスト②
第12回	高齢者看護の実践の特徴と責務
第13回	高齢者の健康問題とライフサイクルの最終段階における死の概念と支援
第14回	長寿社会を生きる社会生活の条件や地域資源を活用した看護の展開
第15回	高齢者看護に関する基礎的知識の統合

■受講生に関わる情報および受講のルール

1回～15回の講義を通して高齢者看護を理解するための基礎を学びます。高齢者が抱える今日的な課題となっている諸問題を解説していきます。高齢者看護を保健・医療・福祉の側面から捉えその動向を知ることが、高齢者看護をより深く理解できるようにくみ立っています。欠席しないで予習・復習をして講義に参加して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後の放課後。

■評価方法

筆記試験(客観・論述)60%、小テスト20%、課題レポート20%で総合評価する。
総合評価は筆記試験・課題レポートの60%を超えることが大前提である。

■教科書

①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②国民衛生の動向

■参考書

老年看護学関連出版物、随時資料を提示。